

第1章 簿記とはどのようなものなのでしょうか？

1. 簿記って何の為のものなのでしょうか？

会社を経営していく上でいくら儲かったのかということや会社の財産の状況はどうなっているのかということを理解することはとても大切です。

会社では、商品を仕入れたり、販売したり、給与を払ったり、車を購入したりと様々な活動を行っています。その活動一つ一つを記録し、会社の儲けや財産の状態をあきらかにしていくことが簿記の目的です。この目的を達成する為には日々の活動を記録し、集計していく必要がありますがその方法にはルールがあります。このルールを簿記といいます。

2. 決算書

決算書は会社のもうけや財産の状況をあきらかにする報告書です。会社で起こっている様々な活動をまとめて最終的な報告書として決算書を作成します。決算書をつくることで、会社が儲かっているのか、損しているのかが分かり、建物などの資産や借金の残高など財産の状況も分かります。それによって儲ければもうけに応じて税金の計算や株主への配当金の計算が出来るようになります。

決算書には貸借対照表と損益計算書という2種類があります。貸借対照表はある時点の会社の財産の状態がどうなっているのかをあきらかにし、損益計算書はある期間での会社のもうけがどうなっているのかをあきらかにします。決算書を作る対象期間は通常1年間ですがこの期間を会計期間といいます。例えば4月～3月の1年間を会計期間とすると会計期間のスタートである4月1日を期首、ゴールである3月31日を期末といいます。会計期間は企業の任意で決めることができますが、3月末を決算日とする企業が多いです。

3 . 複式簿記

簿記の目的は会社の財産や経営状態をあきらかにすることですが、家計簿なども簿記の一種で単式簿記といえます。一般的に言われている簿記とは複式簿記という方法です。

なぜ、複式簿記というのかというところあるひとつの取引を2つの側面から捉えていくからなのです。取引とは会社の中で起きている様々なお金やものの動き全てをいいます。例えば、500円のビールを現金で販売したという取引があるとします。この取引は500円という現金が増えたという面とビールを販売して売上が増えたという面から見る事ができます。次に、30万円の借金をしたという取引があるとします。この取引は30万の現金が増えたという面と借金30万円が増えたという面からみることが出来ます。このように取引を2つの側面からみて記録していくのが複式簿記の特徴です。

4 . 資産、負債、資本、費用、収益というグループを理解しましょう

決算書には貸借対照表と損益計算書という計算書があります。貸借対照表には資産、負債、資本のグループがあります。損益計算書には収益と費用のグループがあります。

又、資産、負債、資本、費用、収益のグループにはそれぞれの勘定科目があります。例えば資産グループの中には現金や建物などの細目があり、これを勘定科目といえます。勘定科目とは取引を記録する際に誰もが理解できるようにする為にあります。例えばある建物を A さんは「ビル」と書いたり、B さんが「鉄筋コンクリートビル」と書いたりするとわからなくなるので、この場合の勘定科目は建物という勘定科目を使用しましょうとなっています。大切なことは様々な勘定科目が資産、負債、資本、費用、収益のどのグループに属するのかをよく理解することです。



5 . 仕訳 ~ ルールを覚えるととても簡単です

仕訳は簿記を学習していく上で基本となるものです。仕訳とは1つの取引を2つの側面から見て、勘定科目と金額を利用して記録することをいいます。取引の仕訳は伝票に記録しますが、次のような形をしています。

借 方	貸 方

左右に分かれて、それぞれ借方、貸方となっていますね。この借方、貸方という言葉には特に意味はありません。

1つの取引を2つの側面から見て記録するのが仕訳ですが、2つの側面を左と右に分けます。この時の左側を借方、右側を貸方といいます。借方や貸方という言葉に意味はないので、左側が借方、右側が貸方と覚えてください。

簿記が理解できるか理解できないかの一番の分岐点が仕訳のルールが理解できて仕訳をすることができるかどうかですので、ここでの仕訳のイメージをしっかり持っておくようにしましょう。

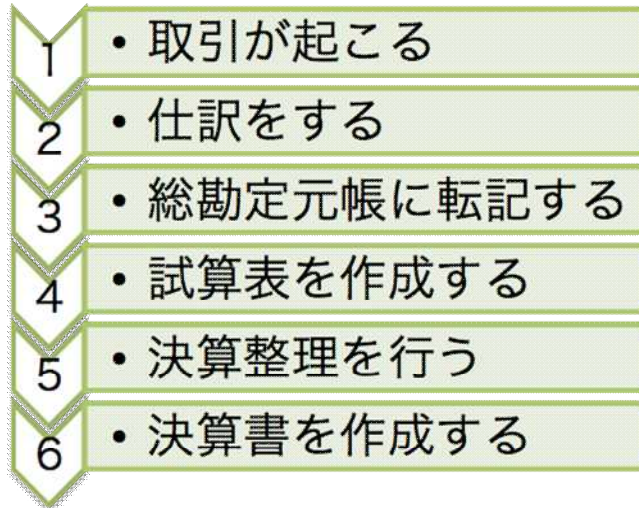
6 . 簿記一巡の流れ

会社では簿記はどのように行われているのでしょうか？

会社では主に経理部で簿記を行っています。日々の取引を仕訳し、伝票に記帳します。次に仕訳の記録を各勘定科目ごとに整理していきます。この時に使う帳簿を総勘定元帳といいます。ここまでが日々の業務となります。

会計期間が終わると決算を行います。決算とは会社が1年間に起こった取引をまとめて決算書を作成することです。まず、1年間の売上はいくらか、1年間の消耗品費はいくらかといった勘定科目別の残高を集計していきます。その結果、全ての勘定科目をまとめた表を作成します。この表を試算表と言います。試算表とは試しに算出した表という意味です。試算表が出来ると各項目において修正が必要な部分を修正していきます。この手続きを決算整理といいます。決算整理が終了すると貸借対照表と損益計算書を作成し、完了となります。決算は1年間の取引全てを整理するので決算の時期の経理部はとても忙しくなります。

～ 簿記一巡の流れ ～



現在ではパソコンソフトを利用して経理を行うので仕訳を入力すると総勘定元帳や試算表は自動的に作成されます。しかし、試算表に誤りがある場合に簿記の知識がないとその原因が分からないのでどんなにパソコンソフトが進化しても簿記の技術は必要となってきます。